

会議結果報告書

1	会議名	ごみ有料化に関する説明会（市民向け②）
2	日時	令和3年12月25日（土）10:00～11:30
3	場所	市役所本庁舎4階 会議室1
4	出席者	（資源循環課）原田主査 （環境事業センター）篠田主幹、中山担当主査 （市民）参加人数：30人
5	内容	<p>資料に基づき、ごみ有料化に関する説明会を実施した。主な質問と意見は次のとおりであった。</p> <p>● 戸別収集に対する反対の意見にはどのような内容のものがあるのか。 → 反対意見としては、ごみ箱を置いたままにしておくことにより、留守であることがわかるため、防犯上望ましくないといった意見や、経費が掛かりすぎるといった意見、車両台数が増えることによる渋滞の発生、玄関先にごみ箱を置くことによる景観の悪化といった意見が挙げられている。</p> <p>● 古紙を出す際は、ビニールの紐で束ねたり、テープで巻くこともできるのか。ダンボールに貼ってあるテープは剥がすのか。 → ビニールの紐で束ねることはできるが、粘着性のテープで巻くことはリサイクルの観点から控えていただきたい。雑紙は紙袋に入れてお出しいただくこともできる。ダンボールのテープは剥がせるものは剥がすのが望ましいが、無理に剥がさなくても構わない。</p> <p>● スーパー等で袋や有料のレジ袋を買っており、すでにコスト意識を持っている。新たに市の指定袋を購入したとしても減量にはつながらないのではないか。どういった理屈で、これ以上ごみが減るのか。また、ごみ有料化を実施しても、数年で元に戻ってしまうと聞いた。意味がないのではないか。 → 市の指定袋は、市販の袋よりも高い値段設定をしている。全国的なデータを見ると、値段を高く設定すればするほど、減量効果が高まるということが実証されている。本市が設定した値段は、15%～25%程度の減量効果が見込める水準となっている。皆様が出すごみの中には、資源物が混入している実態があり、費用負担を意識して分別することで、ごみが減量することになる。また、実施後、数年で減量効果が逡減するという実態もあるが、全国的なデータから本市では、減量効果の逡減が起こりにくい金額を設定している。</p> <p>● マンションの管理組合が出すごみはどのように扱うことになるのか。管理組合には説明をした方がよいか。 → 事業者用のチラシを参照の上、排出量の制限内で黄緑色の指定袋を使用して集積場所に排出するか、制限を超える場合は、民間の廃棄物処理業者に処理を依頼するか、環境事業センターに直接搬入する方法がある。管理組合に直接説明をしていただくか、市までお問い合わせいただくようご案内いただきたい。</p>

- 剪定枝の扱いについて説明してもらいたい。出し方については、今後どのように周知されるのか。
- 今年の4月から剪定枝の資源化を開始している。枝や幹の太さが1cmを超えるものは、剪定枝としてお出しいただくことになる。1cm未満のものは透明・半透明の袋に入れて、燃やせるごみの日にお出しいただくこととなる。2月に配布する「ごみ有料化に関するパンフレット」と、3月に配布する「ごみと資源物の分け方・出し方」において周知させていただく。

- ボランティアの清掃や活動に伴い排出されるごみの扱いはどうなるのか。
- ボランティア清掃の場合は、ボランティアごみとしてお出しいただくことができる。ボランティア活動に伴うごみの扱いについては、現在検討をしているところであり、改めて周知させていただく。

- 燃やせないごみで小さいものを出す際は、長尺物に巻き付ける袋と一緒にに入れて出してよいのか。
- 長尺物や大きいもので使用する袋とは、別の袋に入れていただく必要がある。長いものや大きいものを細かく折ったり砕いたりすれば、一緒にの袋に入れてお出しいただくことができる。

- ごみ有料化がうまくいくという確証を市は持っているのか。
- ごみの減量については、確実に達成できると考えている。不適正排出については、制度の開始に伴い多少生じることは否めないが、それを想定した上で対策を講じており、問題ないものと認識している。

- パトロールやカメラの設置はどのように行うつもりか。
- パトロールについては、市内の集積場所すべてで立ち番を行うことは現実的に困難であるため、現状において不適正排出が多く生じている箇所を対象に、重点的に実施することを考えている。

- 袋は切って使ってもよいのか。
- 袋の加工は認められない。

- 袋の口をテープで留めてもよいのか。
- 集積場所でごみが散らかることを防ぐため、袋は持ち手か、ペロを結んでいただく必要がある。テープで留めることはできない。

- カメラの貸し出し期間はどのくらいか。カメラは電池式か。
- 期間は定めていない。電池式のカメラとソーラー式のライトを貸し出す。

- 最終処分場の使用期限が過ぎたあとの灰の処理はどのようになるのか。候補地は

考えられているのか。

→ 新たな最終処分場を市内に建設することは困難であるため、民間の事業者に灰の再資源化を依頼して処理することとなる。

● 啓発シールが貼られて取り残されたものは自治会の責任で処理するのか。パンフレットではどのような案内がされるのか。

→ 自治会の方で処理していただく必要はない。そのような状況が生じた場合は、市にご連絡いただきたい。場合によっては、ボランティアごみとして自治会で処理していただくことも可能である。不適正に排出されたごみを、市が回収するという案内は、制度の悪用に繋がるため積極的にはできないが、そのような場合は市に連絡していただくよう、皆様に案内する。

● ごみの大きさを問わず袋を貼り付けることができるのか。

→ できない。袋の中に入れて、持ち手やペロを縛ることがルールとなる。それができないような大きさのごみを出す場合のみ、袋を貼り付けることができる。

● おむつの出し方を聞きたい。小分けの袋に入れて出してよいのか。

→ 構わない。おむつやストーマ袋は、小分けの袋に入れたり、新聞紙に包むことも可能であるが、その場合は中に何が入っているかわかるよう、袋に明記していただくこととなる。また、明記することが躊躇われる場合は、指定袋に入れることも可能である。

● 指定袋の原料は環境に配慮されているのか。

→ バイオマス原料を 10%以上配合して作製している。

● ごみ有料化に反対である。市民が引っ越すこともある。指定袋が返品できないことに納得がいかない。

→ そういったニーズに対応するため、販売店舗で対応が可能であれば、バラでの販売をお願いしているところである。

● 市はごみの収集体制を見直しているのか。年末年始の収集をやめれば、経費の削減に繋がり、ごみ有料化をしなくても済むのではないか。

→ これまでも様々な工夫を行い、経費削減に努めてきた。収集日を減らせば、経費の削減に繋がるが、市民サービスの低下にもなることから、双方のバランスを見て検討を進めていきたい。

● 直接搬入時の混雑緩和のため、施設内の動線を工夫してもらいたい。

● 袋のサイズは 45L が一般的であり、40L の袋では市販のポリバケツに適合しない。

→ 市で採用した袋は、持ち手付きの袋であるため、45L であったとしても市販の

平袋の形状とは異なることから、ポリバケツに被せることはできない。持ち手つきの袋を採用した理由としては、収集時の効率や、ごみがこぼれないように袋の口を結びやすくすること、また、40Lとした理由は、できるだけごみを少なくする意識を持っていただきたいといった狙いがあるということで、ご理解いただきたい。

● 市販されている黄色い袋や他市の袋で出しては駄目なのか。

→ 茅ヶ崎市指定の袋をお買い求めいただく際に支払っていただいた手数料が、本市のごみ処理を継続的に行うための財源になることから、茅ヶ崎市の指定袋を買っていただく必要がある。

● 家庭用は記名式にしないのか。

→ 個人のプライバシーに配慮する観点から記名式は採用しない。

● 剪定枝の基準を教えてください。

→ 太さが1cmを超えるものは剪定枝、1cm未満のものは燃やせるごみとなる。

● 公園の剪定を愛護会で行っている。今後はどのように市に収集を依頼したらよいか。

→ 公園緑地課に相談してもらいたい。

● 地域清掃で集めた枯葉は、ボランティアごみで出してよいか。

→ 構わない。

● ポイ捨てされたごみは、ボランティアごみで出してよいか。

→ 可能な限り分別した上で、ボランティアごみとして出して構わない。分別が困難な場合は、燃やせないごみの日にボランティアごみとして出していただきたい。

● 年間の負担額は、他市では1人当たり大体どのくらいか。

→ 世帯人員や生活様式によってごみの量は変動するが、1人当たり1500円～2000円となっている。

● 長尺物に指定袋を巻き付けるのではなく、テープを巻き付けてはどうか。

→ 指定袋を用いることによって、ごみを排出する際に費用負担をお願いするという仕組みであることから、テープは使用することができない。

● 燃やせるごみと燃やせないごみの袋が同じ色であると、出す側の市民も収集する側の職員も混乱するのではないか。今後、見直す予定はあるのか。

→ 同じ色とした理由としては、燃やせるごみと燃やせないごみの収集日が別の日であること、異なる色にした場合はそれぞれの袋を市民の皆様にご覧いただくか

なくてはならなくなるからである。今後については、状況を見ながら、必要に応じて検討を進めていく。

- 汚れているプラスチック製容器包装類を判断する基準を教えてください。
→ 具体的な基準はなく、個人の感覚で判断することになる。水で流して、落ちる程度の汚れであれば、きれいにしてプラスチック製容器包装類としてお出しいただき、落ちないような汚れであれば、燃やせるごみにお出しいただきたい。汚れが残ったものをプラスチック製容器包装類として出してしまうと、他のプラスチック製容器包装類に汚れが付着し、リサイクルができなくなってしまう。
- 不適正排出によって地域住民に負担がかかっていることを市として十分に認識した上で、不適正排出の削減に向け啓発をしてもらいたい。また、指定袋の対象とならないごみについて、明確にわかるようパンフレット等に記載してもらいたい。

以上